

精神的な課題を持つ利用者との共生を可能にするための研修会

特定非営利活動法人 緩和ケアサポートグループ

〒203-0053 東京都東久留米市本町 1-13-1 コンフォール東久留米 402

助成事業の概要

【目的】NPO 活動参加者に、うつや統合失調症を合併した患者あるいは家族・遺族、精神疾患寛解の方などが増え、その対応に困難を感じるが多くなった。こうした利用者への対応に苦慮している医療福祉従事者を対象に、利用者との距離のとり方など、共生を可能にするための基礎を学ぶことを目的として研修会を開催した。

【内容】東久留米市・周辺地域の医療福祉従事者を対象として、リエゾン精神看護専門看護師を講師に招き、明治薬科大学東久留米サテライトキャンパスにて以下の研修会を開催した。

①2019年6月28日(金)、②10月18日(金)開催。いずれも東久留米市の事業所を中心とした小規模な会(定員30/40名)として、18時30分～20時に講義と質疑応答の時間をもった。

③2020年1月25日(土)は、周辺地域にも広く案内を送り(定員60名)、14時～16時に開催。講義内容は前2回とほぼ同じだが、グループに分れて活発な意見交換がなされ、質疑応答も深まった。

事業の成果

参加者の状況

①6月28日には30名、②10月18日には15名が参加した。事前申込者は各回42名、24名だったが、平日で勤務が長引いたためか欠席者が多かった。

アンケートには、ほぼ全員が回答しており、内容が(非常に)役に立ったという回答が約9割であった。回答者の多くは40～60代であり、ケアマネジャーと介護職で半数をしめていた。

③2020年1月25日には35名が参加した(事前申込者は40名であった)。

アンケートには34名が回答、33名が(非常に)役に立ったと回答した。回答者は50代が14名で最多であり、30～60代で9割をしめた。職種ではケアマネジャーが17名で最も多く、次いで看護師10名、介護職4名であった。

3回全てに参加した者が1名、3回中2回に参加した者が4名であった。また、各回にスタッフ8～9名が参加し、共に学んだ。

研修成果

毎回、同一講師からの1時間余りの講義をとおして、「対象者の精神疾患に関連する対応の困難さ」「不安のあらわれ方、怒りや拒否」「希死念慮」「両価感情」「共感ストレスと共感疲労」などを学んだ。この学びから、【精神的課題を持つ利用者への対応で経験している困難さが当然のものであるのだという保証を、参加者が得られたこと】が一つの成果であった。

さらに、参加者の反応を受けとめて、講義内容の重点を主に精神的課題をもつ利用者に対応しているスタッフ、チームの意識のありように置いた結果、【共感疲労への陥りやすさを省み、「感情を吐露する場を設けること」、「感情を言語化すること」、「限界を認めること」など、参加者が自分自身の心身のメンテナンスの必要に気づく】という成果が

みられた。

第1回、第2回では、勤務後の1時間半の設定であり、講義が中心となった。第3回では、土曜日午後の2時間をあてたことで、小グループに分れて各自の現状や課題を自由に話し合う時間をもてた。

同じ課題をもつ仲間がいることを実感し、経験を分かち合えたことも参加者にとって大きな収穫となった。

■ 成果の広報、公表

精神的課題に関する微妙なニュアンスも含む講義内容であったことから、不特定多数の対象に向けて公表することには慎重を期した。

NPO 法人会員や支援者に配付するニュースレターには第1回研修会の記録を掲載した。しかし、その内容を NPO 法人のホームページに公開することは差し控えた。従って成果を広く公表するにはいたっていない。

講義資料や講義記録をとりまとめた研修会報告(別添)を、NPO 法人事務所や相談室等の活動の場に設置し、閲覧希望の方に応えられるように備えていくこととした。

■ 今後の展開

今回の研修会には、これまでの NPO 主催の緩和ケア学習会以上に、ケアマネジャー、介護職の参加が多いことが特徴的であった。精神的課題を持つ方への対応というテーマは、地域での学習ニーズが高いことが示された。また、質疑応答や小グループでの話し合い、アンケート結果をとおして、精神的課題をもつ事例への対応の中でケア提供者が疲弊していることが窺われた。

困難を互いに語り合うことで共感疲労を緩和できるという意義を考慮して、今後の方向としては、

1. 定期的を開催する。
 2. 講義と質疑に加えて、同様の課題をもつ者同士で語り合える時間をもつ。
 3. 1と2を実現するには少規模の会が望ましい。
 4. 講師は介護職や看護職の実践の場に明るく、精神疾患や臨床心理の基礎知識を有する者が適切である(例えば、今回の研修会のようにリエゾン精神看護師、さらに臨床心理士、精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカー等)。
- 以上を踏まえて今後の計画を立てていきたい。